

黄金町エリアマネジメントセンター
KOGANECHO AREA MANAGEMENT CENTER

黄金町バザール 2020 開催決定！ (7/3～10/11)

作品プラン&AIR マネージャー・インターンシップ募集中



「黄金町バザール」は横浜・黄金町を舞台に 2008 年から毎年開催しているアートフェスティバルです。第 13 回を迎える今回は、2020 年 7 月 3 日（金）から 10 月 11 日（日）までの 90 日間開催します。

本展のサブタイトルは「AIR とコミュニティの寓話」です。黄金町では「アートによるまちづくり」の一環として、アーティストがまちに滞在して作品を制作する「AIR(Artist in Residence)」を展開しています。今年の黄金町バザールでは、黄金町を拠点として活動しているアーティストと、黄金町バザール出展のために短期滞在するアーティストの双方を組み込んだ展示構成により、AIR とコミュニティの可能性と関係について考える機会にしたいと思います。

2 月 4 日（火）より、作品プランと、AIR に特化したインターンシップの募集を国内外に向けて開始しましたので、ご案内いたします。

■ 1. 開催概要

タイトル | **黄金町バザール 2020 – AIR とコミュニティの寓話**

会 期 | 2020 年 7 月 3 日（金）～10 月 11 日（日）【計 90 日間】

休場日 | 木曜日（7/23、8/13、10/8 を除く）

会 場 | 京急線「日ノ出町駅」・「黄金町駅」間の高架下スタジオ、
周辺のスタジオ、屋外、他

主 催 | 特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、
初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

■ 2. 募集情報について

募集期間はいずれも 3/15（日）（※日本時間の 23:59）までです。詳細はウェブページをご確認ください。

① 作品プラン募集

<http://www.koganecho.net/contents/news/news-2901.html>



② AIR マネージャー・インターンシップ募集

<http://www.koganecho.net/contents/news/news-2904.html>



<本リリースに関するお問い合わせ>

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター Tel: 045-261-5467 E-mail: info@koganecho.net (広報: 立石、神田)

3. ディレクター・メッセージ

AIR とコミュニティの寓話

昔々の若いアーティストの話です（私のことです）。

彼の前には交錯することのない二つの世界が広がっていました。ひとつはアートの世界。もう一つはアートのことなど、なにも必要としないように見える彼を取り巻く日常の世界。当時からこの両方を橋渡ししようとするユートピアのような言説がありました。彼はそのユートピアに憧れましたが、現実にはそんな世界はありませんでした。若いアーティストはその二つの世界をいつも往復していました。それは物理的な往復でもありました。また国内外の雑誌から情報を集めることも重要でした。しかし、いつもの日常へ戻ると、それらに、ほとんど情報としての価値はありませんでした。

当時私が思い込んでいたアートのアイデンティティとはなんだったのか。また、アートを拒否するよう見えたとコミュニティのアイデンティティとはなんだったのか。

私は双方のアイデンティティを解体するしかないと考えました。これら二つの世界をつなぎ直すと思われた接点は私の中では新しい観客のイメージでした。観客とは不正確な言葉ですが、この観客はいわゆる作品を中心に置かない不真面目なあるいは不注意な観客です。

私は作品を見るときに、作品の外側を同時に見ようとしてしました。そのために作品の自立性をあまり尊重しないというか、むしろどうでもいいと思っていました。そこに未分化性や境界を探すことの方に興味を持ち、アートの概念が変わっていく契機をそこで捉えようとしてしました。また、ここが私にとってのアートの役割が発生する場所であり、ここに視点を定めて、複数のコミュニティが混在する場所である都市における実験を始めることにしました。私がさきほど述べた不真面目な観客の原型は都市を往来する人たちのことです。彼らは同時になんらかのコミュニティのメンバーです。しかし彼らには観客と呼べるだけの条件はまだ整っていません。そういう場所に私は他のアーティストと一緒に入り行きました。最初は大混乱でした。都市の側も混乱したし、アーティストも混乱しました。つなぐ立場の私たちも同様でした。

この実験の重要なところは誰も今のままではいられない、ということでした。そこでは誰も肯定されていません。これがまだそこにいなかった観客を探そうとした私の物語の始まりです。

これはひとつの寓話です。これを現在につながる話へと読み替えます。

やがて、最初はなかった方法が醸成されてきました。コミュニティを訪れたアーティストが、そこに住んで、生活しながら、作品をつくるようになったのです。これは新しい別の物語の始まりでした。

私の中で、アートのアイデンティティの解体のモデルとなったのが当時のアジアの若いアーティストたちの行動でした。彼らとその課題を解決していたというより、彼らはそれが課題であることを把握していた、ということだと思います。

2020の黄金町バザールは長期のレジデンスアーティストと、公募と招待による短期レジデンスのアーティストを組み合わせて実施する予定です。それは長期のレジデンスアーティストが作り出してきた環境の中に、短期のアーティストが一時的に参加し、いっしょにひとつの展覧会を作り上げることを意味しています。今までも、そのような機会は潜在的にはありましたが、今回はそれを意識的にやりたいと思います。

黄金町バザールは、アーティストにとっては、二つの課題があります。ひとつはアートが小さな単位で言えば地域コミュニティ、大きな単位で言えば都市や社会とどのような関係を持つのか、もう一つはアーティストが街の中で滞在制作を行うことで、その関係を通して自分自身が変わっていく契機をつかむということです。

黄金町は今でも多くの課題を抱えています。その課題は時期によって少しずつ変化しています。アーティストの関わりによって、それが可能性を持つ出来事にも変わるかもしれません。

見えない観客の可能性を、と書こうとして私は去年もやはり可能性の話を書いていました。以下の通り、同じことです。

「より善いものを選択すること」は、アートと社会の関係をもう一度流動化し、そして再び組み立て直すことによってその可能性を試みることであり、それは「黄金町バザール」の継続的なテーマとしてあり続けています。

黄金町バザールディレクター
山野真悟

<本リリースに関するお問い合わせ>

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター Tel: 045-261-5467 E-mail: info@koganecho.net (広報: 立石、神田)